

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) A.I  
所属 (School) 生命環境科学域自然科学類  
学年 (Grade) 1 学年

留学先 (Name of overseas institution)  
フランス (トゥール)  
留学期間 (study abroad period)  
9/10 から 9/26

記入日 (Date) 9/26

## 留学レポート Study Abroad Report

今回の研修では、多くのことを学び経験しました。  
なので、この留学レポートでは、いくつかの内容に分けて書いていきたいと思います。

### 1、 授業について

二週間の学校生活で、自分のフランス語が少しは伸びたと思います。授業が始まったばかりの時は、全く分からないうえに全然聞き取ることができませんでした。そこから、わからないことはちゃんと聞くなど、毎回、友達に教えてもらいながらでしたが頑張りました。すると、少しずつですが、先生が言うことが理解できるようになって本当にうれしかったです。言語に関しては、努力と慣れるということはとても大切と感じました。

### 2、 ホームステイ

私のホームステイ先には、自分以外にもう一人ホームステイしている女の子がいました。その女の子の母国語はスペイン語（日頃はフランス語で会話している）。毎日、4か国語触れる生活でした。私は、まだフランス語で話すことはほとんどできなかったのですが、挨拶など簡単なことはフランス語、世間話は、英語という状態でした。たまに、その女の子がスペイン語で単語など教えてくれました。本当に楽しかったです。食べ物の話、狩猟の話などとても多彩な内容の会話をしました。その中で、自分の世界観も、とても広がりました。夕食の料理は、いつも美味しかったです。キッシュ、クレープを始め、日本では食べたことのない食べ物もたくさん食べました（特にクスクスやブラッドソーセージが印象大）。また、海外留学を考えている学生へのアドバイスとしては、日本のお菓子や食べ物、おもちゃを持っていくことをお勧めします。食べ物系は、日本の味が恋しくなったときにもちょうどいいですし、また、誰にでもあげることができるので話題作りにもなります。私は、ホームステイの女の子に抹茶味のキットカットと梅昆布をあげました。色や味に面白い反応をしてくれました。日本のおもちゃとしては、万華鏡と折り紙を持っていきました。一緒に鶴など簡単なものから星など難しいものも、お互いに頭を悩ませながら作ることができて、とても楽しかったです。最後には、ホストマザーに折り紙で作るくす玉をあげると喜んでもらえて嬉しかったです。また、ホームステイ先に男の子がいるなら、竹とんぼなどが喜んでもらえたそうです。

### 3、 観光

私は、滞在中、毎日どこかには出かけていました。ある日は、カフェに行ったり、ショッピングしたり、古城めぐり・美術館めぐりもしました。本当に毎日新鮮で楽しかったです。ほんと小さな発見から、大きな日本との違いにも出会うことができました。例えば、「螺旋階段が多い」、「トイレが有料は当たり前だが、時間制限がある場合も存在する」、「山がないから草原の見渡しと雲がきれい」などこんな単純な発見がありました。買い物では、見た目では何か分からないもの（シャンプーとトリートメントとか）に戸惑ったり、読めないメニューを頼んで想像してなかったものが届いたりなどの体験も今となつていい経験であり、いい思い出です。私は、美術館や大聖堂に多く行きました。大聖堂も外見は似ていても内装は全く違いました。美術館は、ルーブル美術館、オルセー美術館の有名どころ、オルレアン美術館など知る人ぞ知るところにも訪れました。やっぱり教科書などで見たことのある作品を見るのはとても楽しかったです。しかし、知らない作品でもじっくり見ると筆遣いなどの面白さを発見することができました。

おすすめの場所としては、自分がただの旅行ではいけないようなちょっと変わった地域（フランスならパリ以外）です。「海外留学は、その場になじんで生活するものでもある」と私は感じています。やっぱり、現地の国の人を知るちょっとした観光地に行くのがいいと思いました。私は、いくつかホストマザーが教えてくれた場所にも行きました。そして、なによりできるだけたくさんの場所に訪れるほうがいいと思います。「百聞は一見に如かず」です。非現実的に感じる海外留学の時間、ちょっとでも無駄のないように過ごすのが一番です。私は、日本ででの生活では経験しない、美術を中心とした五感をフル活動させるそんな日々でした。

#### 4、今後について

今回の研修で学んだ一番のことは、「何でもぶつかってみる、知ろうと努力する」です。日頃の生活では、後回しにしてしまったり、そもそも知ろうとしなかったりすることもしばしばあります。でも、向こうでは知ろうとしなければ生活ができないようなそんな状況でした。まだまだわからないフランス語で道を尋ねたり、毎日、「これは何？」とたくさん質問したり、訪れる観光地の展示されている作品の説明を読もうとしたり毎日努力していました。そこまでして理解できたときの達成感、爽快感は本当に素晴らしかったです。このことを忘れず、これからの大学生活、いろんなことに挑戦して充実したものにしていきたいです。そして、最後に、人生の中でもう一回ぐらいはフランスに訪れ、次こそは、日本人の助けなしにいろんなことをしてみたいです。

以下の写真は、風景写真、ホームステイ先での料理、サンガティアン大聖堂です。

